

思い出に残るパネル展10選 (6) ” 出雲の地の結び付き”

第22回パネル展2010年12月 | N出雲 (助成：日本財団)

地元出雲市、市の社会福祉協議会、自死遺族グループの協力
で実現できた。



自死遺族パネル展



自死遺族フォーラム

山陰中央新報2010年12月17日



新報



鳥取県江府町の会社員
足立昇さん(59)は200
1年5月、20歳を迎えた
ばかりの長男・洋さんを
失った。遺書には「また
おさんとお母さんの子
供として生まれ変わらな
い」と、書き残されて
いた。

最後の会話は、数日前
の洋さんの誕生日だっ
た。「今日から大人にな
った。今日からはきちりし
ない」と駄目だ」と書いた
。

パネル展会場、自命を
絶った洋さんの幼いこ
ろの写真などを前に、思
い出を語る足立昇さん

自ら命を絶った50人の遺書や写真、遺族の手記などを集めたパネル展
「私の中で、生きているあなた」が、17日から3日間、出雲市塩治有
原町の市民会館で始まる。「自殺は個人ではなく社会の問題。現実を知
り、正面から向き合ってほしい」とのメッセージが詰まっている。入
場無料。

きょうから 遺品や手記で訴え

自殺は社会の問題

出雲

言葉が追い打ちをかけた
のでは、なぜ気付けな
かったのか、とでも罪悪
感にさいなまれるとい
う。

「何をやるつもりですか
帰ってこない。でも、ま
だ救える命は」。そのま
う願ひ、全国年間3万
人を超える自殺者数の推
移を示すグラフと向き合
人組から悪質な悪喝を受
けていたことが、後で分
かった。その後、加害者
約100点を掲げ、現実
への激しい怒りと悲しみ
を訴え掛ける。

県内の自死遺族でつく
る「しまね分ち合いの
会」、立ち直ることで
きた。

・働く者のメンタルヘル
ス相談室の共催で、18日
に同会が市民会館で開く
「しまね自死遺族フォー
ラム2010」に合わせ
て企画した。

フィルタリング普及へ

青少年のネット
トラブル防止 県警や県
連携強化 松江

県警や県、インターネット
トラブリー業者らでつく
る「青少年が安全にネッ
トを利用できる環境促進
会」は16日、松江市
打出町の県運転免許セン
ターで会合を開き、有害
サイト閲覧を規制するフ
ィルタリングの普及に向
け連携を強めることにし
た。

県や県警、携帯電話の
通信事業者や家電量販店
の関係者約40人が出席
席上、県警生活安全部の

少年健全育成条例の一部
改正案について約九
書簡やネットカフェ等

者はフィルタリング機能
の導入に努めるなどの

県高校スピーチコンテ
ストが16日、出雲市今市
町の出雲高校であり、県
内5校から出場した9人
が家族や地域とのかわか
り、命の大切さをテーマ
に発表を交わった。

審査の結果、益田東1年
の青木美奈子さん(16)が
優勝した。

青木さん(16)

県高校スピーチコンテ
ストが16日、出雲市今市
町の出雲高校であり、県
内5校から出場した9人
が家族や地域とのかわか
り、命の大切さをテーマ
に発表を交わった。

審査の結果、益田東1年
の青木美奈子さん(16)が
優勝した。

思い出に残るパネル展10選 (9) ” 切実なる想いを届ける”

第25回パネル展倉吉2011年8月IN倉吉 (助成：日本財団)

会場である「倉吉未来中心」当時の知事が名づけた。市民の憩いの場になっており、通りがかりの見学者も多かった。230名が見学。

2011.8.20(土)

日 本 海 新 聞

差別や偏見なくす

自殺者遺族グループ「コスモスの会」

きょう 倉吉 パネル展やフォーラム

過労やうつ病などで自殺に追い込まれた人たちや遺族について正しく理解してもらいたいと、とっとり自死遺族自助グループ「コスモスの会」は20日、倉吉市駄経寺町の倉吉未来中心で、パネル展とフォーラムを開催する。19日に会見を行い、多くの人の来場を呼び掛けた。自殺者の遺族への差別や偏見をなくすこと、自殺予防、自殺した人や家族の名誉回復などを目的に行われ



思いを語る厨子さん=19日、町の倉吉未来中心

1年ほど日中に外出できず、精神的に落ち込んだ」という。
 会見では、パネルを展示したNPO法人働く者のメンタルヘルス相談室の伊福達彦理事長が「社会的な諸条件などが重なって亡くなった人の名誉回復につなげたい」と思いを訴えた。
 パネル展示「私の中で今、生きているあなた」は、倉吉未来中心アトリウムで、午前10時から午後5時まで。150枚のパネルが並べ、亡くなった人や遺族の写真、残された最後の言葉、自殺をする若者たちの実態、悲しみを訴える遺族の声などが紹介されている。フォーラム「伝えたい遺族の想い」は午後1時半から同所のセミナールーム1で、厨子さんがパネリストとして登場し、意見交換などを行う。パネル展示、フォーラムとも入場無料。

会場の倉吉未来中心アトリウム

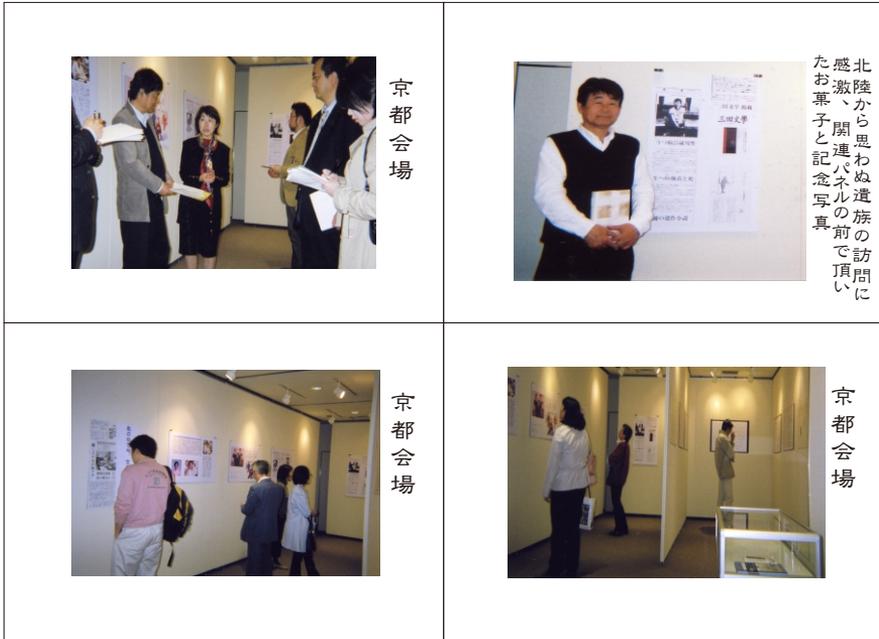


パネル展に230名、フォーラムに60名が来場しました

思い出に残るパネル展10選 (10) ” 遺された遺族の出發”

第1回パネル展2007年4月IN京都 (助成：日本財団)

第1回パネル展である。まだどこからの助成も決まっていない段階での船出だった。経済的不安もあった。東京から中原さん、北陸からKさん、地元京都のご遺族も来てくれました。



京都会場

北陸から思わぬ遺族の訪問に感激、関連パネルの前で頂いたお菓子と記念写真

京都会場

京都会場

過労、うつ病自殺 悲しみ知って

下京で企画展 再発防止へ取り組み



過労で自殺した夫の遺書を手にする中原さん(左)。会場には、当事者の苦悩や遺族の悲しみを伝える資料が並ぶ(京都市下京区・ひと・まち交流館)

京都新聞2007.4.2

過労やうつ病で自殺した人々をテーマにした企画展「私の中で今、生きているあなた―うつ自殺五十家族の悲しみを見つけてみませんか」が、京都市下京区のひとつ、まち交流館京都で開かれていた。遺族らも「残された者として役に立てれば」と展示に協力、再発防止への取り組みに市民の関心が集まっている。

大阪市北区のNPO法人「特定非営利活動法人 特定非営利活動法人 特定非営利活動法人」が主催する「過労やうつ病で自殺した人々をテーマにした企画展」が、京都市下京区ひとつ、まち交流館京都で開かれていた。遺族らも「残された者として役に立てれば」と展示に協力、再発防止への取り組みに市民の関心が集まっている。

「働く者のメンタルヘルス相談室」が、愛する人を失う悲しみを共有し、問題を一緒に考えようとする「うつ自殺」を初めて開催した。過労やうつ病で自殺した会社員や公務員ら男女五十人を、裁判資料などを基に紹介。遺書や手記を展示し、過酷な残業や上司の圧力など、うつ病の原因になる職場実態を示している。

会場には東京都内の病院に勤務して過労で「うつ病」を患った人々の苦悩や、命をかけた夫の思いを社会に伝える「命をかけた夫の思いを社会に伝える」などのパネルが並ぶ。また、当事者の苦悩や遺族の悲しみを伝える資料が並ぶ。

「働く者のメンタルヘルス相談室」が、愛する人を失う悲しみを共有し、問題を一緒に考えようとする「うつ自殺」を初めて開催した。過労やうつ病で自殺した会社員や公務員ら男女五十人を、裁判資料などを基に紹介。遺書や手記を展示し、過酷な残業や上司の圧力など、うつ病の原因になる職場実態を示している。

九九年に自殺した小児科医中原利郎さん(当時42歳)の資料もあり、今を自殺でなくした人も訪れるなど市民の関心を集めており、「メンタルヘルス相談室」は「遺族の悲しみに触れ、うつ病で自殺した人々の苦悩や命をかけた夫の思いを社会に伝える」などのパネルが並ぶ。また、当事者の苦悩や遺族の悲しみを伝える資料が並ぶ。

会場には、同様に家族を自殺でなくした人も訪れるなど市民の関心を集めており、「メンタルヘルス相談室」は「遺族の悲しみに触れ、うつ病で自殺した人々の苦悩や命をかけた夫の思いを社会に伝える」などのパネルが並ぶ。また、当事者の苦悩や遺族の悲しみを伝える資料が並ぶ。

(佐久間卓也)

NHK, 朝日新聞京都
京都新聞、読売新聞京都
で報道された